

えん + じん

発行：
多賀城市民活動サポートセンター
(たがさぼ)

第8号 【毎月1日発行】

発行日：平成24年5月1日

被災地で生活している方、復興支援活動をしている方を応援する情報誌です。



平成23年8月28日(日)、たがさぼで開催されたワークショップ「荒井良二とふらっぐしっぷ多賀城」にて制作されたフラッグです。このワークショップは、絵本作家の荒井良二さんが、被災した沿岸部を訪問し、出会った人々との対話をもとに即興で絵を描いていく企画です。

できあがったフラッグは、石巻・塩釜・七ヶ浜・多賀城・仙台の5つの街をつなぐ国道沿い、商店街、仮設住宅、公共施設に設置されました。被災地をフラッグで結ぶことによって、被災地同士、住民同士の絆を目に見える形で表現し、共に復興に向かい進んでいくことの大切さを伝えています。

※写真(上・下)は、たがさぼに設置されたフラッグ

もくじ

- P 1…荒井良二とふらっぐしっぷ多賀城
- P 2…特集 市民のチカラで記録する記憶
- P 3…多賀城お役立ち情報コーナー
- P 4…NPO相談窓口／たがさぼブックレビュー

特集 市民のチカラで記録する記憶

東日本大震災から1年以上が経過しました。市民が復興に向けて歩みを進めている一方、あの時の想いや出来事を後世に伝えるための取り組みが広がっています。特に市民による市民のための記録が共感を呼んでいます。

NPO法人20世紀アーカイブ仙台が市民による震災の記録写真を一冊にまとめました。この記録集に込められた想いや完成までの道のりをご紹介します。

150名、18,000枚のキロク

平成24年3月、『「3.11キロクのキロク」市民が撮った3.11大震災 記憶の記録』(以下、「3.11キロクのキロク」)が発行されました。書籍の裏表紙には「100年後でも決して忘れないために。わたしたち市民が撮った3.11記録集」とあります。これは、震災から10日後、20世紀アーカイブ仙台副理事長の佐藤正実さんがTwitterで市民が撮った写真の募集を呼びかけたのがはじまりでした。募集後、すぐに350枚の写真が集まり、4月に専用のwebサイトを立ち上げました。

その後、より多くの人に観てもらい後世に残すために書籍化しようと、「むすび丸むすびあいバンダナ」を制作・販売し、資金を集めながら写真募集の呼びかけを続けました。結果、資金の目処も立ち、およそ150名から18,000枚以上の写真が集まりました。その中から1,500枚を選び写真提供者の体験記録を加えたのが「3.11キロクのキロク」です。

市民がはじめてカメラマンに

「3.11キロクのキロク」は、多くの市民の協力によって生まれた記録集です。避難生活の様子を写真に収め提供した人、バンダナを購入し資金面で支援した人、ボランティアとして企画・編集に携わった人。震災体験を後世に残そうという市民一人一人の想いが記録集に込められています。そして、その想いがいま全国に届いています。

「デジタルカメラが普及していなかった1995年の阪神淡路大震災の時とは異なり、東日本大震災で、多くの市民

がカメラマンになった。デジタルカメラやカメラ機能付き携帯電話の普及によって気軽に記録写真を撮影できるようになった。」と話す佐藤さん。集まった写真は、市民自らが体験した震災直後の生活を如実に表しています。

まちを襲う津波や原子力発電所の事故の様子を報道するテレビと一線を画し、給水や食料調達のため並ぶ列やろうそくの火で夜を過ごす家族、お風呂に貯めた雪など身近な生活の様子が伝わってきます。現在、全国各地で開催している写真展の来場者からも「自分たちにも起こりうる事だ」という感想が寄せられているそうです。市民の目線で撮ったからこそ、自分の生活と照らし合わせながらより身近な出来事として感じるのかもしれない。それは50年後、100年後に観た人もきっと同じ気持ちのはずです。

後世に伝えるために

多くの共感を得た「3.11キロクのキロク」は、発行した3,000部があつという間に店頭からなくなり、早くも増刷が決まったそうです。今後は、障がい者の被災体験記録集の編集など、新たな展開もあります。

1,000年に一度と言われている東日本大震災の体験を風化させずに後世に伝えていくこと。そのために、行政や市民などがさまざまな視点で記録を残すことが大切だ、と佐藤さんは話します。「3.11キロクのキロク」を含め多くの被災体験の記録が、風化を防ぎ、日本全国、世界中の減災に活用されることを願います。



当時を思い返す佐藤さん



3月22日多賀城復興市に並ぶ人々 (撮影:kawanojikazokuさん)



4月16日砂押川に流されてきたタンクローリー (撮影:obata_twitさん)

「3.11キロクのキロク」画像募集中

宮城県内の震災画像を引き続き募集しています。

- ①撮影者のお名前
 - ②撮影日 ③撮影場所
- (10~30字程度のコメント可)
上記を書き添えて、E-mailまたはCDを送付ください。



「3.11キロクのキロク」市民が撮った3.11大震災 記憶の記録

記録集には、多賀城の写真68枚も掲載。震災直後の国道45号線、産業道路や物資を求めて列をなす人々、伝言メッセージなどが被災者の目線で収められています。

【仕様】A4ワイド判ヨコ330ページ 宮城県内15市町約1,500枚掲載 ●画像提供者52名の震災体験 ●3月11日～主な出来事(新聞記事抜出) ●仙台平野を襲った地震津波歴史 ●津波浸水エリアマップ ●仙台市主要書店、またはAmazonにて ●2,100円(税込)

NPO法人20世紀アーカイブ仙台
〒983-0021 仙台市宮城野区田子1-11-2
電話：022-387-0656
FAX：022-387-0651
E-mail：npo20thcas@yahoo.co.jp
URL：http://www.d2.dion.ne.jp/~clip/20thcas.html/

多賀城お役立ち情報コーナー

NPOによるイベントや地域の取り組みを紹介します。困りごとの解決や復興に関わるきっかけとなる情報です。

同じ悩みを分かち合う AA多賀城グループ

第一回AA多賀城グループ オープンスピーカーズ ミーティング

日時:平成24年5月27日(日)
午前10時~午後3時

場所:多賀城市市民活動
サポートセンター

参加費:無料
※昼食は各自ご準備をお願いします。



灯台がデザインされたAA多賀城の看板

AA多賀城グループは、アルコールに関する悩みを抱えた方、その家族、医療関係者、関心のある方などが集まり、悩みごとを分かち合う場づくりを行っている団体です。毎週月曜日に多賀城市市民活動サポートセンターで集会を開いています。

震災の影響によってアルコールについての悩みをもつ方が増えています。オープンスピーカーズミーティングは、一人で苦しんでいる方にAA多賀城グループの活動を知ってもらい、同じ悩みをもつ人同士がつながるきっかけとなる公開イベントです。

アルコールの問題に関心のある方ならどなたでも参加できます。

連絡先
TCO 東北セントラルオフィス
電話:022-276-5210

まちの魅力を紙で発信 手づくりフリーペーパー

個人やグループが、地域や生活の情報を紙媒体で発信する手づくりフリーペーパー。震災後、まちの魅力を見直そうとさまざまなフリーペーパーが誕生しています。

フリーペーパーには、特にルールはありません。カラーやサイズ、枚数はもちろん、テーマも自由です。例えば、地元の住民しか知らない名所を紹介したり、飲食店の食べ歩きをレポートしたり、お母さんたちの口コミ情報をまとめたり。パソコンやイラストが苦手でも、手書きや写真の切り貼りなど工夫次第でおもしろいフリーペーパーが出来ます。完成したら友達に渡したり、人が集まるお店に置いてもらおうと思わぬうれしい反応も。

新聞、テレビ、インターネットと比べると影響力は小さいですが、同じまちの住民がつながる貴重な情報発信の方法です。自分発の情報を、フリーペーパーで形にしてみませんか。



個性的なフリーペーパー

※参考
多賀城をあそぶプロジェクト(仮)
<http://asobolabo.blog.fc2.com/>

たがさぼでは、NPOや自治会・町内会、フリーペーパー等の個人の地域活動に関する相談に応じています。気軽にご相談ください。

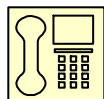
電話:022-368-7745

みんなの声から 地域の防災を見直す 新田中区親交会防災防犯部の取り組み

「ご自身の地震対策を見直しましたか。」「大震災を通して考えたことをお聞かせください。」これは新田中区で昨年夏実施された住民に対するアンケートの一部分です。

「大震災での経験を活かして次の災害に備えることが必要なのではないか。」消火や応急救護訓練を行っていたこれまでの防災訓練を見直すヒントにしようと、防災防犯部メンバーからの提案により今回初めて実施されました。アンケートは要望だけにはならないように自分でできる備えや周りとの助け合いの視点も盛り込み、自分事として考えて振り返って書いてもらえるように設問を工夫しました。「断水時に井戸の水を生活用水として自宅まで配達してもらって助かった。」「地区内のコミュニケーションの大切さを感じた。」という意見のほかに「防災訓練に若い世代も参加してもらおう工夫が必要」「避難情報などの情報伝達に工夫が必要」などの課題も出てきました。

防災防犯部は、住民の声をもとに地区で本当に必要とされていることを明らかにし、重点課題と位置づけて今後の取り組みを進めていきます。



NPO相談窓口

被災者の困りごとや悩みごとに対応する相談窓口を紹介します。

●生活なんでも相談電話●

労働、金融、生活保障、介護、法律、クレジットカード、サラ金等、生活全般に関する相談に応じます。

対象：生活に関して困りごとを抱える方

団体：ライフサポートセンターみやぎ

電話：0120-980-629(通話料無料)

時間：午前10時～午後4時(月～金曜 祝日は除く)

H P: <http://www.life-support-miyagi.jp/>

●東日本大震災 心の相談電話●

東日本大震災により悩みや問題を抱えた被災者の方や支援活動に関わる方の精神的なサポートを行います。

対象：不安や悩みを抱えている被災者及び支援者

団体：東日本大震災心理支援センター

電話：0120-719-789(通話料無料)

時間：午後7時～午後9時(月・火・木・金曜)

H P: <http://www.jpssc.biz/>

●被災地障がい者センターみやぎ●

障がい者自身が運営している団体です。同じ障がい者の視点に立って生活をサポートします。お気軽にご相談ください。

対象：障がい者の方

団体：被災地障がい者センターみやぎ

電話：022-746-8012

FAX: 022-248-6016

時間：午前10時～午後6時(月～金曜)

H P: <http://blog.canpan.info/tasuketto/>

E-mail: cil.busshi@gmail.com

●パープル・ホットライン●

災害、暴力被害、生活のことなどさまざまな悩みごとを相談できる女性専用の電話窓口です。適切な支援者へつなげます。

対象：災害・暴力・人権・生活等に悩む女性

団体：NPO法人全国女性シェルターネット

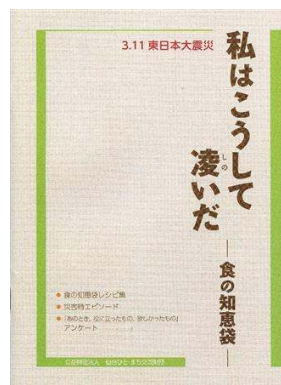
電話：0120-941-826(通話料無料)

時間：24時間対応

H P: <http://nwsnet.or.jp/purpleline/>



たがさぽブックレビュー



〇たがさぽで閲覧・貸出ができます。

3.11東日本大震災 私はどうして凌いだ 一食の知恵袋

編集：
公益財団 仙台ひと・まち交流財団
市民センター合同
G8企画プロジェクト

発行：
公益財団 仙台ひと・まち交流財団

発行日：平成23年12月3日

震災直後、食材の不足やライフラインの供給停止に多くの人が不安を抱えていました。しかし、各家庭では限られた食材を活かし、十分に栄養が取れる料理、最小限の水・電気・ガスで調理できる料理、明るい気持ちにしてくれる料理など、それぞれが工夫したレシピを考え、危機を乗り越えました。

本書は、「食」をテーマに被災者から寄せられた非常時に役立つレシピや震災時のエピソードを掲載しています。「ごはんが炊けない時のすいとんカレー」や「冷蔵庫に残った材料で作るじゃがいもピザ」、「ツナ缶を使ったオイルランプ」など、実際に今回の震災で活躍した工夫が集まっています。

この本は、生きるために必要な「食」の知恵を与えてくれます。再び災害に見舞われたときに食事をどうすればよいのか、日頃どんなものを準備しておけば安心なのかなど、みなさんが非常時の備えを考えるうえで参考となる一冊です。

〇「えん+じん」バックナンバー〇

たがさぽホームページにてバックナンバーをダウンロードすることができます。また、ご希望の方はたがさぽ窓口にてお渡しします。

ホームページ：<http://www.tagasapo.org/>

〇発行：多賀城市市民活動サポートセンター

〒985-0873 多賀城市中央二丁目25-3
(多賀城市文化センター北隣、上水道部向かい)

電話：022-368-7745 FAX: 022-309-3706

ホームページ：<http://www.tagasapo.org/>

スタッフブログ：<http://blog.canpan.info/tagasapo/>

Twitter アカウント：[@tagasapo](https://twitter.com/tagasapo)

〇編集：NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター